

# 東雲夢通信

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊 和彦

平成三十年十月二十六日発行第十一号

去年も今年も、一年生も三年生も

過日、大分合同新聞で、本校は佐伯市の中学校で唯一、全国学力調査や大分県学力調査で二年連続、全国平均を上回った学校として紹介されました。非常に名誉なことです。生徒の皆さんのおかげと、ご家庭、地域の皆さんのお陰、そして、先生方の頑張りのお陰だとも思います。ありがたいことです。そして、いろんな方から、各方面から「どうして成果が出たの？」と聞かれます。いろいろな要素があり書き切れないと思います。一つ、はつきり言えること。「何にでも頑張る」です。

例えば、英語弁論大会、昨年の参加者は本校から3名だけでした。今年も、本校の2名と、他の中学校から5名。英検の受験率も合格率も本校は佐伯で一番です。

ビブリオバトルにも2年生三吉さんが、参加してくれました。国東の夢一文字コンテストには、一年生全員が、社会を明るくする運動の作文に、2年生野崎さん、松田さんが、なんと野崎さんは、今度別府のビーコンプラザで表彰されます。

そして、佐伯市駅伝大会にも、本校は男女ともエントリーしました。四十人しかいない生徒で、男女出場男女とも見事完走！男女とも出場したのは市内のわずか半数。その中に東雲あり！あと、税の作文やら、図書館や、理科の作品展、様々。

「何にでも頑張る」できそうではない。だけど、人間にとつて、最も大切なことかもしれない。今、文化祭に向け頑張っています。



※上は東雲の禱を必死でつなぐ一年児玉航舵君

## スマホに振り回されるな

皆さんの応援のおかげさまで、二年生、菅さくらさんは、ジュニアオリンピックで五位に入賞しました。昨年の河野凜さんに続き、これも二年連続で、東雲の生徒が、全国の頂点を極めようとしているのです。そして、菅さんのお陰で、私は、応援のため上京する機会を得ました。で、上京する度、毎度思うのですが、満員の電車の中、ほぼ全員がスマホをみています。廻りを見回したり、人物を観察したり、車

窓の風景を見ているのは、私だけです。スマホで傷ついて、スマホで悩んで、スマホでトラブって、スマホに振り回される。：そんな生活はまっぴらごめん！

※トラブル回避：簡単です：電源

## もしかしてカツオなのか？

ということ、東京の大学で四年目を迎えた次女と、新宿で遅い夕食をすることになりました。金曜の夜ということもあり、新宿は昼間のような明るさと賑わいです。居酒屋さんに入りました。従業員国籍はバラバラ、多くが東南アジア出身の方の様でした。娘は、少し迷った末、「ブリの刺身」をオーダーしました。この時点で私はギョツとしたのです。正直「こんな店で、刺身を頼むのか：：東京で：：」と。悪い予感、的中しました。出てきたブリの刺身は、まるで、カツオの刺身のように、血合いでない白身の部分まで、赤く染まっているのです。下処理か血抜きが十分ではなかったのでしょうか。あえて、色々いわず、自身は、肉系の焼き物、揚げ物に終始し、娘の住むアパートへ帰り着きました。我慢できずに「何であんな店で、刺身やら頼んだの？」と若干抗議口調で尋ねました。「だって、お父さんがおらんと、刺身とか、食べられんやん。普段」私は少しだけ、娘が不憫になりました。それと同時に、新鮮な魚が、いつでも食べられる、このふるさと、上浦や佐伯に、生活できる幸せを感じたのです。